

南信濃まちづくり通信

第60号 令和3年2月号 2021年2月12日発行

発行：南信濃まちづくり委員会
編集：まちづくり委員会総務委員会
事務局：南信濃自治振興センター
TEL 34-5111

遠山川水力発電所建設計画 対策委員会の状況報告をします

昨年から、中部電力との協議を進めるための情報収集や飯田市の担当部署である総合政策部企画課との協議を対策委員会として進めています。まずは建設予定地である地元の皆さんへの事業計画の詳細説明が必要であることから、まちづくり委員会の主催で上下中根・須沢地区を対象とした地元説明会を12月21日に自治振興センターで開きました。

当日は中部電力担当者から計画の詳細説明があり、参加者からは、
「特に須沢地区は平成10年に地すべりが発生し

て、その後対策工事をし20年余経過したが、地盤の安全対策は大丈夫か」

「沿線の道路は、旧森林鉄道跡の遺構であり観光登山のアクセス道として活用するよう整備しているが、工事による影響が出ないように考慮していただきたい」といった意見や要望がありました。

引き続き、南信濃地区全体の説明会開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のレベル引き上げにともない開催時期を見合わせておりますので、ご了承ください。

小澤欣三さん（大島） 県警本部長感謝状受賞

1月29日に飯田警察署で、山岳遭難防止対策協会の救助隊員としての長年の尽力に対して、小澤欣三さんが長野県警察本部長感謝状を飯田警察署長から受けました。

小澤さんは、「私一人の功績ではなく、長く携わって来られた諸先輩方、同僚の隊員の皆さんの協力あつての感謝状です」と受賞の喜びを語っていました。

小澤さんは昭和49年入隊以来、遭難者の捜索活動や負傷者の救出活動回数は20回の出勤を数えます。山の捜索活動は危険と隣り合わせであり、救助要請があった場合には、自分自身の都合を顧みず直ちに出勤することが求められます。急な出勤に備えた訓練により後継隊員の育成にも努めてきました。

また、「遠山山の会」の会長としても活動され、登山道の整備や道案内の表示を設置するなど安全な登山のための活動にも積極的に取り組まれています。

実際の救助出勤の内容を挙げると、
○平成16年5月、池口岳登山の4人組パーティーのうち1名（71歳女性）が、標高1900m付近で体調不良のため単独で下山したが道に迷ってしまい行方不明。



飯田警察署長から感謝状の伝達を受けた
大島の小澤欣三さん（左）

小澤さんが同乗し誘導した県警ヘリで発見し、無事救助された。

○平成25年5月、易老岳登山中の64歳男性が左足を捻挫して動けなくなったため行方不明。2日間の捜索活動により、山頂から100m下の稜線登山道で発見し無事救助された。

わたしたちの地区は、聖岳・光岳という日本百名山に数えられる2峰がありますが、木沢地区に移住している登山家の大蔵喜福さんが提唱し、一般社団法人南信州山岳文化伝統の会を中心に進めているエコ登山の取り組みなど、南アルプスというこの地域の貴重な資源を活かして地域の元気につなげられることを、地域を挙げて期待したいと思います。

まちづくり委員会は『自治会活動保険』に加入しています

～万一の場合には速やかに連絡を～

まちづくり委員会は、「自治会活動保険」に加入しています。

まちづくり委員会や各自治会での活動等における様々な事故が対象となります。

まちづくり委員会や自治会での活動等とは、「まちづくり委員会または自治会が企画・立案し、総会、運営委員会または会則（名称は問いません。）に基づく手続きを経て決定された活動及び行事」をいい、国内での活動・行事に限ります。

一部住民のために組織された地域団体（婦人会、消防団、住宅・施設管理組合など）は対象外となります。

◇具体的な内容、対象となる事故例◇

〔1〕行事活動中の第三者の身体の障害・財物の損壊による賠償事故

- ・テントややぐらが倒れて通行人にケガをわせてしまった。
- ・ソフトボール大会の開催中、近隣の民家の窓ガラスを割ってしまった。

〔2〕行事活動中の住民の方の傷害事故

- ・まちづくり委員会組織団体が企画した遠足の途中、参加者が転倒しケガをした。

〔3〕住民の方以外への傷害見舞費用

- ・運動会の招待客が、競技に参加中、転倒し骨折した。

補償内容		支払限度額
賠償責任（身体・財物共通） 自己負担額1事故1,000円		7,000万円
傷 害 （ 1 名 当 た り ）	死亡・後遺障害	700万円
	入院（1日につき）	4,000円
	通院（1日につき）	2,000円
傷害見舞費用		10万円

（注意）

事故等の内容や状況により補償対象となるもの、ならないものがあります。

事故があった場合は、できるだけ早く「まちづくり委員会事務局（自治振興センター）（34-5111）へ」ご連絡ください。

◆お知らせ（健康福祉委員会・公民館）

今年度の「健康まつり」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止します。

◆お知らせ（まちづくり委員会）

南信濃地区若者等定住促進補助金交付申請を受け付けしています。申請期限は3月15日（月）まで。

お忘れのないようご確認ください。

◆お知らせ（自治振興センター）

次回の自治会文書の配布予定日は、**2月25日（木）**です。

◆お知らせ（自治振興センター）

本年4月1日採用予定の「非常勤職員（会計年度任用職員）」を募集しています。

◆お知らせ（自治振興センター）

昨年9月～11月まで乗合タクシーモデル運行を実施しました。電動車いす（セニアカー）を2台購入し、乗合バスご利用の皆様にご利用いただきました。引き続き、電動車いすの貸し出しをしております。乗合タクシーをご利用されている皆様に優先してお使いいただきたいと思ひます。ご利用の際には、自治振興センターへお申し出ください。

◆南信濃地区の人口・世帯数

（令和3年1月末現在、住民登録人口による）

人口：1,272人（12月比+2人）

（男593人・女679人）

世帯数：667世帯（12月比▲1世帯）

地区の話題(その21)

自然を使った遊びを考えたい

和田保育園主任 後藤亮児

昨年4月から和田保育園に勤めています後藤亮児と申します。

園周辺の川沿いの道を子どもたちと散歩していると、遠山川に沢山の流木があるのを見つけました。「何かに使えないかな…」と考え、思い切って引き上げてみると、子どもたちも保育園まで運んでくれて、流木で簡単な家を作ってみました。子ども達は「りょうじハウス」と名付けてくれました。

他にも、山崎製材さんから頂いた木の板を使い、一人一つの椅子を作りました。木の皮をむいたり、サンドペーパーできれいにこすったり、釘を打ったりして自分の椅子が出来たときには、子どもたちも嬉しそうで、今も毎日座っています。

「これを使って何か作れそうだな」「子どもたちと一緒にやったら楽しそうだな」と感じるとつい体が先

今日も元気に保育園

凍み大根づくりに挑戦!

～ひもを通して吊るしたよ～

今年の冬は例年になく寒い冬です。

夏の終わりに種をまいて育ててきた大根を収穫し凍み大根づくりに挑戦しました。

収穫した大根を洗い、給食の先生に皮をむいて輪切りにしてもらって、お湯でゆでました。今年は「くど」でお湯を沸かして釜を使ってゆでましたが、お湯の中で大根がグルグル回り、あっという間にゆでることができました。「あ!大根のにおいがしてきた」と子どもたち。五感を使って楽しんでいます。

ゆであがった大根を冷ましてから穴をあけてひもを通していきます。一人ひとり真剣な表情で、ひもを



に動いてしまい、子どもたちが「何しているの?」と寄ってきてくれて遊びが広がっていく感じがとてもうれしいです。

南信濃の豊かな自然を使って遊ぶ中で、子どもたちにどんな経験や学びを提供できるかを常に考えて保育をしています。今年度はコロナの影響で、地域の方々とのふれあいや交流が少なくなってしまい、大変残念でした。地域の方々に支えてくださっての保育園だと思っていますので、コロナが終息しましたら、地域の方々との交流をしたいと思っています。

今後とも和田保育園をよろしくお願いします。



ゆでた大根をひもを通して干します。
出来上がりが楽しみですね。

縛っていました。年長さん達は「簡単だよ」と言いながら、一人が2、3個縛っていましたよ。ひもを通して大根をつるして、毎日見えています。朝の寒さと昼の太陽の温かさの寒暖差で、日に日に大根が小さくなり、色も白から黄色に変わっていくところを観察しています。

今年は美味しい凍み大根ができそうで楽しみな子どもたちです!

信州遠山郷 交流拠点&移住定住情報の発信基地

ゲストハウス“太陽堂”だより



2021年最初の太陽堂だより。みなさま、今年もどうぞよろしくお祈りします。

太陽堂は今、冬期休業中です。1月、2月はそもそも遠山郷へ来る方がぐっと減る時期で、かつ今年にはコロナ禍もあり、思い切って長期休みにしました。実はその間、遠山郷を離れ、他の地域を見てさまざま吸収しようと思っていましたが、感染拡大が収まらずそれも思うようにいかない状況になってしまいました。

そんな中でも、先日1週間ほど福島県西会津町に滞在してきました。会津チャレンジライフというプログラムを利用した滞りです。会津への移住や多拠点居住、会津の暮らしや働き方などに興味のある人に、最大5泊の宿泊料金をサポートして、会津暮らしを体験してもらうプログラムです。

着いた日は雪。今年は雪が多く、すでに1メートルぐらひは積雪がありました。到着して滞り先となるゲストハウスの前を早速雪掻き。これもプログラムの一環です。プログラムの内容は体験希望者の要望を聞いてカスタマイズされるのですが、私の場合は雪掻きのほかに、

- ・ゲストハウス改修のお手伝い
- ・地域の味噌屋さんの味噌づくり
- ・ヒロロ編みという手仕事体験

を体験させてもらいました。



この雪をどけて通路を作りました



ヒロロ編みを教えてくれた西会津のもーさん

お世話になったゲストハウスでは毎日おいしいご飯も用意してもらい(福島のおいしいお酒も)、旅行のような楽しさもありつつ、生活しているような充実感を味わいました。

地域として一番厳しい冬の時期に中期間滞りし、暮らしを体験してもらう。体験プログラムを通じて地域の人とも交流があるので、地域へ関わる人、興味を持つ人が増えるとてもいい移住施策だと思いました。遠山郷でもできそうです。というか、やりたいです。

今都市部ではコロナ禍の影響もあり、地方への移住・多拠点居住に興味がある人が増えています。日本全国の地方が移住希望者を呼ぼうと奮闘しています。確実に人を遠山郷に呼び込むためには、頭を使い、実効性のある施策に必要なお金を使っていけないと、とても勉強になった福島滞りでした。